

議会・行政改革特別委員会記録

日 時 令和4年12月20日（火曜日）14時00分～14時42分

場 所 議員控室

出席者 金木委員長、逢坂副委員長、磯野委員、平山委員、阿部委員、工藤委員、船本委員、小寺委員、舟見委員、村田委員、森委員

事務局 豊島事務局長、嶋元係長

金木委員長

それでは、皆さん、どうもお疲れさまでございます。ただいまから議会・行政改革特別委員会を進めてまいります。

1 改選後の議員定数について

金木委員長

本日は、引き続き議員定数について、改選後の議員の定数、これをどうするかという案件で協議を進めていきたいと思っております。

前回は9月30日だったと思うのですが、そのときも大体皆さんから意見も出していただいた中で、現状のままでいいとか減らしていくべきだというような意見も含めていろいろ意見は出ていたのですが、もうちょっと改めて期間を置いて、もう一回改めて話し合っていきたいという声もあったので、その流れで本日開催をするということになりました。この間ですけれども、管内でも幾つかの町で議員定数1減という町も新聞紙上ですけれども、発表されたりしているという動きの中で、また夏に取ったアンケート、町民アンケートの結果などもさらに踏まえまして、さらに意見、皆さんのお考えなどをお聞きしていきたいと思っております。特に資料とか今日はないわけですが、前回述べていただいた意見なども大体皆さん覚えていらっしゃるかと思うので、その後どうかということも言っていただければなと思っております。誰からでもお願いします。

— 主な協議内容等（質疑） — 14:01～14:42

磯野委員 前回言った意見と同じです。現状維持ということのほうがいいと思っております。1つは、やはり定数を変えるということは、それなりにいろんな客観的な社会情勢だとかというのが必要になってくると思うのですけれど

も、羽幌の場合は確かにかなり前に選挙がなかったという年もありましたけれども、ずっと選挙があっているのです、それはやはり私は羽幌町としてはいいことではないかなと思っています。うわさでは、いつも選挙ない、ないと言いつつも、ちゃんと手を挙げる人がいるということは、至極真っ当な町だなというふうに感じています。そういう中で、今委員長から出たように、あちこちの町でも確かにその話は出ていますけれども、では我が町はどうかとなったときに、私はやはり議会というのは、羽幌の場合は客観的に見た場合に1人当たりの人口から見てもそれほど、他の町と比べて減らさなければならないという状態でもないだろうし、前回も言いましたけれども、選挙もちゃんとあっている。これで例えば前回選挙がなかったりとか定数割れしてしまったというのなら、また別ですけれども。それと、アンケート調査した中で、やはり半数の人は現状のままでいいと。それから、増やしていいという人も1割いた中で、客観的にみんなそういう状態を考えたときには、やはり私は現状のままでいいというふうな意見ですので、そもそもの根本としては、私はやはり議員というのはいろんな各団体だとか各界、各層からいろんな人が出てきて意見を戦わすものだと思っているので、減らすというのはなかなか難しいのだろうと思っています。特にそういうふうになると、やはり一番私が気にしているのは、例えば少数の方の意見だとか、弱者の意見だとか、そういうものをやっぱり、そういう人たちが出ようとしたときに定数が少なくなってくると、ちょっとやっぱり間口が狭い。私は、ぜひともそういう人たちにも出てきてほしいし、であれば私たちの今することは定数を減らすのではなくて、何とかそういったいろんな今、日本じゅうで言っている成り手不足、そっちを解消する方法を議会としては考えていかなければならないのではないかなと思っています。というのは、ずっと私も長年議員をやっていますけれども、そういう活動というのは実はしたという記憶がないのです、何とか。ただ、そういう中で議会報告とか、皆さんに知っていただきたいことはやっていますけれども、残念ながらコロナでしばらくやっていませんけれども、もし機会があるのであれば、これから4月まで、3月の選挙もありますから、そういう中でそういう成り手不足を解消する方法というものを論議するのがまずは一義だと思っています。

以上です。

金木委員長 ほかの方、いかがですか。(何事か呼ぶ者あり) 順番に聞いたらどうかということですので、こちらから。

平山委員 磯野委員がかなり中身の濃いことを言ったので、私は簡単に言います。私も本当は、前回私は決めかねるということをしてたしか言っていたと思うのです。でも、今回この委員会があるというときに、自分として何を根拠にして定数を減らすのか、何を根拠にして今のままでいいのかというのをちょっと考えてみたのです。でも、何となく根拠となるような、たしか意見も自分としてはなかったような気がするのです。それで、町民アンケートも取って、その中では先ほど磯野委員も言いましたけれども、このままでいいのではないかという意見が半数ぐらいあったと。それだったら、私はまだ今回はこの定数のままで、今回というか次期、この定数のままでいいのではないかなと思います。やはり人口数にもよってくると思うのですが、今6,400ぐらいかな。この4年後となったら、また何名ぐらい、増えることはないと思います。減少はするだろうと思いますから。また、次期のときにもやはりこれは継続した課題としてやっていったらいいのかなと私は思います。
以上です。

阿部委員 自分は、以前から定数は1減と言ってきていますので、今回についても1減とは思っています。理由としては、人口が減ってきているということも一つの理由にもなりますし、あと今の財政的な部分で考えていくと、少しでも減らすことによってそっちの負担というのを変えていけるのかなと。その分を何らかの形で町民に返して、サービスとして返していくべきなのかなと。議員としてまず、報酬も含めてなのですから、そうやって思っていました。
あと、やはり自分の周りだけなのかもしれないですけども、ちょっと議会に対して本当に不信でもないですけども、すごくそういった声も聞こえてきていましたので、やっぱりどこかで議会改革という、定数減が議会改革になるかどうかということもありますけれども、やはりそういったことに対して何らかの形で応えていくべきなのかなと思っていましたので、私の意見としては1減で考えています。
以上です。

工藤委員

私は、前回現状維持で11人でということ saying いたのですが、その後9月から3か月たって、他町村も減らすというところが出てきていますし、町民の思いとしてもやはり、この11人の定数にしてからの年数もかなりたっているのだからと私は思うし、これだけの人口減になっている状況から見ると、ここで1人減らすというのが私は妥当かなというふうにして最近ちょっと考えが変わってきました。1人減ることによって、いろんな町民の意見を吸い上げるという部分は、若干なりとも減るとは思いますが、その分は減ったなりにやっている人数でカバーしていくのだという形をつくってあげれば、町民に対しての手当てというか、そういう部分もかなっていくのだからと思いますので、私は今の思いでは1人減らしていくべきかなというふうに考えております。

船本委員

私は、前回までは1減という考えでございました。ところが、アンケート調査も実施しまして、報酬も議員定数も含めてアンケート調査を見た結果、私は報酬を手をつけるわけではない。今回は手をつけませんから、現状の維持でいいのかなというふうになりました。なぜかといったら、票の多くを持っている人は悠々と当選できるのですけれども、中には票は少ないけれども、優秀な方がたくさんいらっしゃる。ですから、やっぱりその窓口というか、定数をある程度広げておいたほうがそういう方々も議員になれるチャンスがあるのではないかなということで、今回はちょっと減から現状維持というふうになりました。以上です。

小寺委員

自分は、定数は下げたほうがいいと思っています。現状も十分ではないかもしれませんが、町民の声をそれぞれ議員が聞いて、それを委員会活動ですとか定例会、一般質問、それぞれの議員の役割をしっかりと果たしているから、定数を減らしたからといって、それが大幅に変わることは考えていません。アンケート結果もありますけれども、半数はという数字上は出ていますが、個別の記述式の意見を見ると、かなり議会に対しての不信というか、信頼、情報不足もあるのですけれども、そういうのが記述になるといろいろ出てきているところを見ると、逆に言うと半数はそれほど気にしてはいないけれども、4割の方は減らすべきということで、自分としては減らすというほうが理にかなっているの

と、あとは人口減少を含めた中で割合的に言うと、この8年間で1,000人以上人口が減っているわけで、議員が1人なり2人なり減る段階でそれら町民の声が聞き取りづらいということにはならないかなというふうに思っています。報酬に関してはあれですけども、まず定数でいうと減らすべきと。幾つということではないですけども、減らす方向で問題はないかと。私は、そう減らすべきというふうに思っています。以上です。

逢坂副委員長 私は、先般のこの委員会においては現状維持ということで、それについては変わりません。理由としては、先般も言いましたけれども、まずアンケートで当然これは参考にするためのアンケートであったと私は認識していますので、町民のアンケートの中では逆に50%プラス3%、53%以上の方が別に適当である、あるいは逆に少ないという方も3%もいる現状を考えると、今各町村、確かに管内で減らしているところは実はあります。それもいろいろと調べてみたら、人口が全然羽幌町と、半分ぐらい、以下なのです、全て。それを考えると、羽幌町の11というのは全道を見ても全く多い数字ではなくて、町民から私は結構な人数、町民の方に聞いたのです、アンケートを回答した以外の方に。そうすると、全然羽幌町は問題ないという方がほとんどだったのです。私の聞いた範囲というのは何十人程度ですけども、それも全然今のままで何か問題あるのかと逆に言うと、そうやって言われて、逆にもっともっと変な話、ちょっと横道にそれるのですけれども、町にどんどん言うぐらいやっぱり勢力を持たなければ駄目だというふうに逆に言われて、そこはちょっと話は別な話なのですけれども、定数に関しては私は現状のままでいいということで、私の考えです。

舟見委員 前回は現状維持ということで、考え自体は全然変わっていません。それは、要するに人口の割合というのを見ると、管内でも議員定数1、1削減しているところがあるのですけれども、人口数があまりにも違うということと町民アンケートを最初から参考にするという話でしたので、私自体の考えはやっぱりこのまま行くべきだろうと思っております。以上です。

村田委員 自分も大分いろんなことを考えながら、前回の委員会の後にアンケートが来たかとか、どう思っているかとかという、ほかのいろんな意見を聞いた中で、あと管内的に増毛町が今まで11名だったのが10に1つ下がったというところもあって、議員定数と、あと今議員がなっている、なれる立場という人がやっぱり自営業だとか定年を迎えた人だとかというところも結構、やっぱり世代的にもうちょっと若い世代が出せるような形にできないのかとか、そういう意見も聞きながら、答えとしては今2町村が1減したというところで行くと、羽幌もその当時から見ても人口減が進んでいて、今の段階なら1減でいいのかなという。その1減することによって、では何が変わるかというと、あまり変わらないのかもしれないですけども、やっぱり先ほど磯野委員が言った成り手対策、ここがやっぱりどうしても考えて進んでいかないと駄目なのかなと。いろんな人の意見も聞きながら、今はそう感じて。増毛さんが下がっていないのであれば、下げられないかなと思うけれども、増毛さんが下げたことによって、羽幌町としても1減でいいのかなと思って、1減として意見を述べさせていただきました。

森委員 結論から先に言うと、私もずっと今までの経緯だとか、それから議会の中身とか、それは自分も含めてですけども、いろいろ反省も含めて見てきた中で、今回アンケートの結果が53というのは、ちょっとひょっとしたら誤差の世界かなというのは基本的にあります。先ほど逢坂委員のほうから何十人も聞いたという話ですけども、私は特に近しいとか、そういうことではなくて、そういう話をした人では、ちょっとあの結果とは真逆どころか、圧倒的に多いというので、削減するべきだという声しか、まずそういう意識を持っている人というのかな。向こうから声をかけてきた人が大半なのです、自分からどう思いますかではなくて。そういう人は、そういうような結果でした、まずそれと。それから、人口に関しても、これは恐らく16年間変えていないのかな。というのは、それこそ2,000人以上多い段階で、これが適正だということで当時の議員は決めたのです。例えば遠別と比べて人口が多いではないかとか、そういうのはあるけれども、では留萌と比べてどうなのだとか、深川と比べてどうなのだといったら、やっぱり羽幌は圧倒的に多くなるわけで、その辺はそういう考え方を持つこと自体、何も否定的な

思いはないですけれども、それは理屈上成り立たない論理かなと思います。

それと、最後に決定的なのは、町会議員は絶対選挙をやって町民の負託を受けてなるというのがやっぱり必須だと思うのです。過去選挙がなかったときというのは、実はなさそうだという話があって、その前、ごめんなさい。その前がなさそうだという話があって、最後にばたばたと出て、それこそ選挙の1週間ぐらい前に出て選挙になったのです。そういう現状だったので、次は減らしたのです。若干1名かな。そうしたら、今度選挙は定数そのままだという話の流れの中で減らしたのだけれども、最後に1人余ってしまったのです、逆に。出るようになって、埋まるようになったら2人、もう一人、出るのではないかとなくなって、選挙になるといったらやめてしまったのです。選挙になるといったら、やめたのです、出ると言っていた人が。それで1減になって、そこからまた2減らして、多分今の現状です。

それで、今回は今いるメンバーというのは全員選挙をして、町民の負託を受けてなってきたので、現状に関してはいいのですけれども、今も町会議員に対して検討している人はいると思います。その上で我々は4年間、自分たちの議員活動を含めて審判を受ける立場かなと思います。さっき磯野委員が言っていましたけれども、そういうことの中でやっぱり選挙が必ずあるような環境を議員の責任としてやっていく必要があるのかなという思いがありまして、これは実はもう結果は出たなと思ってしゃべっているのですけれども、そういう人たちにも声をかけて、ぜひ選挙をやって、町民の負託を受けた議員の中で、その中でやっぱり次の4年間で責任を持ってやっていけるような形になれるようにという思いも込めて削減ということに結論的にはしたいと思います。

磯野委員

大事なことなので、今我々の間でいろんな意見が分かれたのですけれども、私はこういう、前回の減らすときもそうですけれども、やはり全員の一致というのが必須条件でないかと。別に何を決められたわけではない、民主主義なのだから多数決で、本議会は多数決でいいけれども、こういう問題はやはり全員の一致、ちゃんと論議をして、全員が納得した上でやるべきだと思います。

森 委員 ざっくばらんに言うと、もともとずっと前に決めてきたときに、一回も全員一致なんていうことは絶対ないです。今も5対5かな。なので、それも……

磯野委員 一致というのではなくて、皆さん前の減らすときも最後には、みんな論議したけれども、納得して減らしたのです。ここで多数決なんてしたことはない。

森 委員 多数決していましたよ、必ず。

磯野委員 減らすときに。

森 委員 手を挙げたわけではなくて、それぞれが言うと数が出るではないですか。では、それで行きましょうということ。

磯野委員 でも、それは最終的に皆さんが納得しましたということだったと私はそう理解しています。ここでいきなり手を挙げてとか、それはない。

森 委員 それぞれ言って、数が多かったら、それで行くしかないですよ。

金木委員長 そうですね。何時間かけても平行線のままですから。

磯野委員 でも、これはじっくり話すべきだと思います。多数決で決める話ではないと思います。

金木委員長 私の記憶では、前回、3期前ですか、の記憶でいきますと、現状のままという人が少数だったと思うのです。圧倒的と言っていいかどうか、多数が1減で行こうという話、そういう流れになって、その中で2人だったか3人だったか、現状だと言った人も大勢がそれならば、それで行こうかというふうな感じで、委員会の中では1減が見られたということだったのではないかと思うのですが、今回は今聞いたところ5対5で真っ二つですし、私の意見もまだどうしたらいいのか。私は私なりの意見も持っていますけれども、やはり今磯野委員が述べられたとおり、こう

いう状況で例えば本議会に提案するとしてもまた議場採決というような
……

森 委員 私、誤解されているのかもしれないですけども、ここで事実上、数が多いほうに決められる、それは決めていかないと、いつまでも決まらないので、ここで数が1つでも多かったら、それはそれで議員提案するわけですから、数を。これは民主主義ですから、議員提案したものに対して、その場で自分の思いで反対するということでのこと、今まで事実上、多数決だったということを言っているわけではなくて、決めなければいけないので、やっぱり本来であれば12月中ぐらいには報道発表も含めてした上で、議決は形式上3月になるかもしれないですけども、やっぱり新人で検討する人もいないとは限らないので、そういう形で今日決まって発表する時期に来たのだと思うのです、まず1つ。決めるのは3月です、もちろん。あと、臨時会でやるというのもちょっとどうかなと思うので。なので、これはさっきから、昔からそうですよと言っても必ず一人一人話しして、こっちが多いなということで、そうしたら、これで行きます、というふうに例えば担当委員長なり議長が言って、繰り返しになりますけれども、本会議では全員賛成でやっていくという流れなので、必ず多数決していたという、手を挙げたとかそういうことではなく、意見を今みんな順に言ったわけだから、あとは委員長が委員長の意見で数が決まるわけなので、それでいいのではないかなと。またこれで次にもう一回集まったからとかという必要はありますか。ほかの人にも聞いてみてください。

金木委員長 そうですけども、その辺どういうふうに決着をつけたらいいかなと思っ
てはいるのですが、ただ議長というか、委員長、議長が誰になるかで
また結構拮抗するような状況にもなったりすると……

森 委員 いや、伝わっていないな。ここで結論が出るではないですか、6対5で。
そうした場合に本会議で、それは採決したときに、今の時点でもう数が多い
ほうで決めるのが民主主義であって、そこで今度そのまま反対をやって、
例えば5対5で議長は採決権なくてということの中でひっくり返るとかとい
うことを心配しているのかもしれないけれども、それはもう

羽幌町議会、ここで決めたら最後までみんなで一緒に、それに従ってや
っていくということでないかなと思うのですけれども、そこら辺……

磯野委員 私は違うと思うのです。やっぱり議員として提案するからには全員の一致でいかないと、議員として提案しておいて、議員が反対というのは、それはちょっと違うのではないかなと。ちゃんと皆さんの意見を調整して、全員の一致でやっぱり上げるべきでないかなと。

平山委員 これ要は結局3月議会というか、そこまでどっちかに決めるという前提でいいのでしょうか。

森委員 12月なら12月に決めなければという前提で動いていたと思うのです。本来だったら、12月議会前に開けたら、開いたら12月にかけるということもあったと思うのだけれども、そうしないと検討している人たちなんかも含めて定数がどうなるか分からないとか、その間に現職議員がどうなのだというような話も出てきて、そこでだんだん調整していくのだ、出る、出ないのね。だから、やっぱりタイムリミットです、もう今も。今までの例からいっても。最大遅くても、12月議会にかけられなかったこともあります。3月議会にかけたということも。ただ、結論はほぼ12月から1月の初めというのは記憶にないけれども、今みたいなタイミングだと思うのです。磯野委員の言っている意味が分からないの。それぞれ言って多いほうの意見で決めていかないと。

磯野委員 だけれども、それで行って、議員としてこういう定数を変えますよと提案して、その中で議員が反対という……

森委員 だから、言わないって。

磯野委員 いやいや、反対って言うよ、自分は。

森委員 削減といたら。

磯野委員 削減といたら、本会議で。

- 森 委 員 今まで一回もないですよ。
- 磯野委員 だから、調整をしましょうという話をしている。
- 森 委 員 必ず意見は分かれたのです。満場一致なんていうことは一回もないです、事実上。
- 磯野委員 だから、それは今までも反対意見はあったけれども、最終的にはみんな納得して決めたので、本会議でも全員一致だったけれども、このままで行ったら、そのまんま、真っ二つになったまま議員がというのは、私はちょっとやめるべきだと思います。
- 金木委員長 あり得ますね。私もあり得るかなと思ってはいます。
- 平山委員 森委員の言っている意味も分かるし、磯野委員の言っていることも分かるのだ。私は、やっぱりこの5・5というので、どっちかに決める、あと委員長の意見で決まる。私は、それはやっぱりちょっと反対です。これで7・3とか、6・4とか、少しでも多いのだったら、私は現状維持の人方は納得する。ただ、この真っ二つのままなら、私ははっきりといえば納得していない、それだったら。もう一人ぐらい差があるのならいいのだけれども。
- 阿部委員 もし可能だったら、委員長の考えを聞いてからでもいいのかなとは。
- 金木委員長 私は、アンケートを取る前は、ほかの自治体、あちこちのアンケート結果を見ると、当然町民、住民は多いという結果が大抵の自治体で出ているので、羽幌町でも取れば、絶対もう減らせというほうが多いのだろうというふうに覚悟はしていたのですが、意外に半分、ちょうど半分と。現状維持が半分、もっと増やしてもいいのではないかを入れれば53、多少なり差が、本当に少数ではあるのですが、そういった結果も見て、そんなに減らせという声も圧倒的に多いというわけではないのだなということと、それから夏ぐらいに町民課で出していただいた人口5,000人、6,000人台のこの表、人口の自治体と議員定数の表があるのですけれど

も、5,000人台の町でずっと見ていった場合に、大体10人から11人、ちょうど11人が、12人もありますね。11人ぐらいが大体平均的なところですよ。人口5,000人台の町です。ということを見ると、今の時点でまだ6,000人、次の4年間で5,000人台になったとしても、まだ11名が多いのかと言われると、私はそういう段階ではまだないのだろうと。ぎりぎりのところで、まだ11人で維持しても別に特別羽幌町が多いという判断には私はならないのではないかなという考えで、現状維持という考えで私はいます。それで……

森 委員 それぞれ議員の責任でもって今発言して、やっぱり多いほうで決めるのが民主主義なのだからいいし、そこで決まったことに対して従って本会議に出すわけだから、多いほうの意見を。全員で賛成して通すという、これは議長なんかでも立候補制を取ってやって、いつも何かちょっと違う結果が出たりするけれども、基本的にはそういう話合いの下で、そこでやった上で多いほうに決まった段階で、全員満場一致で出すと。議員の中で、それがやっぱり民主主義だと思うのです。それを無理やり10・0とかという考え方で今言っているのだから、民主主義的に解決していけば、こういう結論になるのではないですか、6・5なのだから。

金木委員長 ということからいきますと、今日をもってほぼ方向づけをしていくということにすれば、一応まだ若干微妙なところですが、現状のままというほうが過半数、6名の意見の方がいらっしゃったということで、来期に向けては減員という提案はせず、現状維持のままという方向で、一応特別委員会としては結論づけたいと思いますが、いかがですか。(いいです。の声)

船本委員 さっきも磯野委員のほうからも出ていたのだけれども、森委員も言ったように多数決が民主主義だというのが出ていました。私は、そのとおりだと思うのです。それが民主主義のあれだと思うのだけれども、そのものによってはさっき磯野委員が言ったように全会一致で決めるべきではないかというものもあるし。だから、私が今ここで減にするか、どっちか決めないとならないのだから。だけれども、Aとなって決めた以上は、みんなはここで納得できなくてもある程度は納得して、全会一致という

形で提案しなければ、これはおかしいと思うのだ。私もゼロではなくて1減という表現で、アンケート調査の結果は定数だけでない。いろいろなものを含めた中で今回は現状維持ということに変わったのだけれども、ちょっとおかしいなと思う人もいるかも分からないけれども、アンケート調査の中ではこの定数だけではなく、まだまだ今の議会に対する議員活動についてもやっぱり工夫すべきではないかという、そういう表現でないかも分からないけれども、そういうようなことが結構あるので、やっぱりそういうものもこれからどんどん行革の中でやるのかどうかは分からぬけれども、やりながらそうなるとなればどうなのか。また、議員報酬も今はいじらないで、私は議員報酬をいじるのであれば、下げるのであれば逆に私は増やすという立場に立ったと思うのです。だから、みんなの言っていることは、みんな正しいのだ。だけれども、ある程度そういう意見もあるのであれば、その意見は大事にしながら、どうやってやるのか。どうやってやったら一番みんなが、納得できなくてもやっぱり人数は多いほうにみんな最後は決めなければならないのではないかと。私はそんな形でこれからも行革も進めるということで、今現状維持なら現状維持といくのであれば、皆さんに納得していただけたほうがいいのではないかなと、そのように思います。

阿部委員 自分は1減でやって、今その納得とかということにいけば、私個人としては減だったので、それは変わらないですけども、結果、多数決で結果として出た以上は、それは従うのは当然民主主義の世界なので、それに対して本会議で何かどうとかというのは正直考えてはいないです。

小寺委員 自分は、さっきとは逆で、多数決では駄目で全員の意見を統一、それはどっちに関しても同じことで、現状維持だから全会一致なくていいとなるのか。でも、逆になると、いや、そうしたら今少ないほうの人を説得しないと一緒にならないかなと。このままでいったら多数決で入って、自分は多数決でいいけれども、ほかの少数派になった人たちをきちんと説得できるような最終的な結論を出していかないと、結果はいいのです。多数決が駄目と言われたら、もう何も進まないですけども、一応は人数でそういうふうになったわけだし、自分はやっぱり町民にもきちんと説明できるようにアンケートもして、2年ぐらいかけて調査を

して、みんなでやったわけですから、今日のやり取りも含めて、結果はどうであれ、各議員が責任を持って発言しているわけだから、きちんとそれは何で今の人数でいくと現状維持になったのか、それを理論立てて伝えるのも一つだし、もう一つはもちろんそれは多数決で決まったからということにはならない。最終的にはなるのですけれども、小寺はこういうふうな意見で例えば削減を求めたけれどもというのは、何らかの形できちんと公表しないと全員、今回に関しては変化がないので、定数ということにはならないのですけれども、ただ、はい、そのまま現状維持、全員、そうでしたという結果だけにしたら駄目かなというふうに思いますので、どういう形、議会広報にも一応ページはつくっているのですけれども、限られているので、その辺はやっぱりどっちにしても町民が知りたいのは小寺は何を言っていたのかというところを、知りたいのだと思うのです。議会としては、そういう結果になったけれども。だから、それは今人数で出たものだから、それはそれでこの議員は賛成と言ったら変ですけども、現状維持、この議員は削減したいと。だけれども、人数的に5対6（6対5。の声）6対5ということで、それは、たださっきに戻るのですけれども、自分はそれでいいと思うのですけれども、納得とか人数なので、それはしようがないかなと。ただ、少数の意見も含めてきちんとアンケート結果に対するわけではないのですけれども、現状だから、そのまんまで何も報告しないということではなくて、きちんと町民に伝えるのが議会として必要なことかなと思います。

阿部委員 ちよっと広報のことも触れられたので、今期になって最初の頃の議員報酬をどうするかといったときも、一応それぞれの考えというのも載ってましたので、結果的に報酬についてはそのままでしたけれども、やはりその辺も載せておかないと、やっぱり見る方はそれぞれの考えを持って見ると思いますので、やはりそういったところもぜひ載せていきたいなどは思っています。金木委員長、担当ページになっていますので。

森委員 あのときも多数決しましたよね。

阿部委員 そうですね。

森 委 員 しましたよね、委員長ね。磯野委員欠席だったのだけれども、磯野委員は減らさないというふうに聞いていますので、磯野委員は賛成票に入れますというような、あのときは1票か、そのぐらいの差で、今回はそれはなしで何かという話は、僅か1年前に同じやり方をしているのだから、それと同じやり方でいいのではないですか。

金木委員長 今、小寺委員、阿部委員からも出たように、これから編集作業にかかる議会だより、1月の末発行になります。ちょうど議会・行革の委員会の報告を私が担当することになっていまして、これも当然現状維持、理由、それから減員すべきだという理由もちゃんと紹介しながら載せるようにしていきたいと思いますが、名前入りでいいですか。

森 委 員 名前入りでないと駄目だ。

金木委員長 誰々議員はこういう。ただし、スペースに限りがあるので、1人2行になるか3行になるか分かりませんが、では全員の名前入りで、6対5、現状維持が多数になったというような状態で。今後に向けての限られた3か月ぐらいの期間の中で、さらに議会改革、行革を進める立場であるということも触れていきたいと思います。よろしいですか。(はい。の声)

村田委員 定数は変わらないのだから、出ないでしょう。議会とかは全然出ないから、やっぱり広報で載せるというのもしていかなければ……

金木委員長 新聞が来ていれば記事になったかなと思いますが、ならないので、それでやります。よろしいですか。(はい。の声) それでは、以上で今日の会議を終わります。ご苦労さまでした。